学級アセスメントツールQ-Uの開発および教育実践モデルの提唱

早稲田大学　教育・総合科学学術院　教授　**河村　茂雄**

科学研究費助成事業（科研費）

- 児童の学級適応感を低下させる教師特有のビリーフの調査・検証と修正モデルの開発(1995　奨励研究(B))
- 教師が活用できる児童生徒の人間関係能力育成プログラムの開発（1999-2001　基盤研究（C））
- 児童の学習・友人関係形成・学級活動意欲を向上させる学級集団形成モデルの開発（2009-2011　基盤研究（C））
- 中学生の対人交流・集団活動・学習の意欲と進路意識を向上させる学級集団モデルの開発（2012-2014　基盤研究（C））

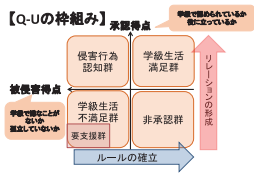

図１　Q-Uでは児童生徒の学級・学校生活に対する満足度を４群で表す。

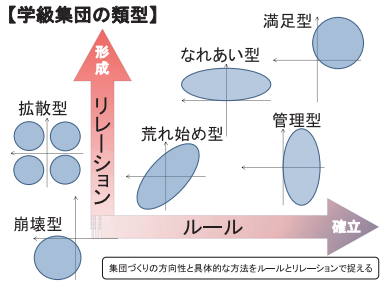

図２　学級集団の状態像により児童生徒への教育効果は異なる！

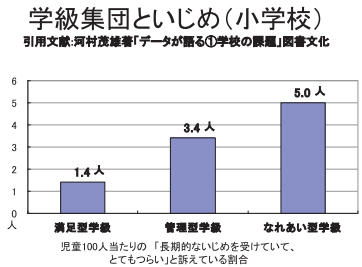

図３『教師と教え子　友達感覚　なれあい型学級　いじめ多く』（毎日新聞　2006.11.24）

児童生徒のいじめや不登校、学級崩壊が増えるにつれて、教師が児童生徒個人と学級集団の実態をよく理解することの重要性が増していった。そのためのツールとしてアンケートを用いた心理測定があるものの、従来のそれは、項目数が多く実施に時間がかかったり、調査結果を実践に活かしにくいなどの問題があった。

そこでマズローの欲求段階説を参考にして、「自身が周りから認められていると感じる度合い」（承認感）と「嫌なことをされていると感じる度合い」（被侵害感）の２つに質問要素を絞り、それぞれを縦軸・横軸として児童生徒１人１人の結果を座標で表す測定法Q-U（Questionnaire-Utilities）を考案した。

例えばある生徒のアンケート結果が、承認得点が著しく低く被侵害得点が著しく高い「要支援群」に分類されるものであれば、早急に個別対応が必要であることがわかる。また、学級に所属する児童生徒全員の結果の分布から学級の状況が分類可能であり、例えば「なれあい型」に分類された場合は学級内のルールが低下していることが読み取れる。

Q-Uは15分ほどの短時間で実施することができ、結果が視覚的に整理されるため、データの解釈に専門的知識を要しない。そのため教育現場で広く活用されており、教師の認識と学級の実態のギャップを縮めて問題を予防することに貢献している。